

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月5日現在

機関番号：34522

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330075

研究課題名（和文） 日本における近代通貨システムへの移行の世界史的意義：「決済」の視点から

研究課題名（英文） On the Transformation of the Monetary System in Japan: Evolution of the Modern Payment System in the Global Context

研究代表者

加藤 慶一郎（KATO KEIICHIRO）

流通科学大学・商学部・教授

研究者番号：60267862

研究成果の概要（和文）：方法論については、類似点に注目する比較史の方向性を見出すにいった。これはより柔軟な時代・空間認識をもって、類似点に注目して様々な事例を選択し、比較するものである。本研究でも「貨幣の重層性」、「貨幣の多様性」、「支払手段と価値尺度の分離」といった視点から、さまざまな時代・地域の事例を検討できた。実証研究については、近世近代移行期の日本社会においては、通貨不足により重層性・多様性が増す中で建値通貨と決済通貨の分離が進行したことが分かった。さらにこうした現象が、西アジア、西ヨーロッパ、中国においても生じていたことを確認した。

研究成果の概要（英文）：On the methodology of this project, we adopted an approach of comparative analysis focusing on not the dissimilarities but the similarity in payment across different regions and periods. Similarities here refer to diversity of the currency, multi-layered structure of the currency or separation between the measure of payment and the unit of account. As for the empirical research, we could find that there was a separation between measure of payment and unit of account in the early modern Japan based on the documents of a local merchant. In other regions such as Western Asia, Western Europe and China, we confirmed that the same phenomenon occurred during their pre-modern or modern period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2011年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
年度			
総 計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、金融論、決済、通貨、比較史

1. 研究開始当初の背景

日本における近代通貨・信用システムの成立に関しては、『明治財政史』『日本銀行百年史』といった当局によって書かれた正史の類の

ほか、数多くの研究が存在する。これまでの研究の成果を総括すれば、幕末開港から金本位制の確立にかけて、前近代社会における多様で重層的な通貨システムから、近代におけ

る単一の通貨システムへの移行が生じたことが明らかにされている。しかしながら、こうした通貨システムの変革が生じた経済史的背景とその内実については、必ずしも明確ではない。この点を明らかにするためには、①近世の通貨使用の実態、②近代移行期における内外の環境変化、③近代通貨システムの設計者の意図とシステム移行の実際の効果、といった点について、通貨の使用実態に即した実証的な研究を行うことが必要である。

2. 研究の目的

江戸時代以前の日本の通貨システムは、金貨、銀貨、銭貨、紙幣（藩札等）など「多様な通貨が重層的に流通する」システムであったが、明治時代には、統一通貨「円」の導入、新たに設立された中央銀行による独占的通貨発行の開始、金本位制の確立といった変革を通じて、現代に通じる近代通貨システムへの移行が行われた。本研究では、日本における近代通貨・信用システムへの移行の背景を現実の経済取引との関係のなかで実証的に検討し、その世界史的位置付けを明らかにすることを目的とする。その際、通貨が経済取引の「決済」に用いられてきたという点に着目し、理論面では決済に関する広義の取引費用の概念を用い、また実証面では日本経済史、アジア・西洋経済史、地域間関係史のこれまでの知見を活用しつつ、同時期の日本と世界の他の地域との比較ならびにその相互関係に関する分析を含めた高度な実証分析を行う。

3. 研究の方法

決済に関して、近世から近代移行期の日本の経済取引の決済の実態を解明するとともに、同時期の日本と世界の他の地域との比較ならびにその相互関係に関する実証分析を行う。第一に、既存研究、商家・農村文書、統計データ等を活用し、江戸～明治期の決済の実態とその変容について、個別の経済取引に即して分析する。第二に、世界諸地域における決済の実態に着目し、上記の方法論を用いて近代通貨システムへの移行に関する日本との国際比較を行う。具体的には、アジアにおいて日本とほぼ同時期に Western Impact を経験した中国とインド、西欧の経済システムに立脚していたが近代通貨システムへの移行は遅れたとされる米国、および日本に先行して近代通貨システムへの移行が生じたヨーロッパを主たる分析対象とする。

4. 研究成果

方法論については、彼我の類似点に注目する比較史の方向性を見出すにいたった。これは日本中世史家の藤木久志氏と西洋中世経済史家の森本芳樹氏がともに唱えるもので、本研究ではこれらから大きな示唆を受けた。具

体的には、従来のように単線的で画一的な発展段階論に基づいて相互の相違に着目するものではなく、より柔軟な時代認識をもって、まず類似点に注目して事例を選択するものである。本研究でも「決済」、あるいは「貨幣の重層性」や「貨幣の多様性」、「建値通貨と決済通貨の分離」といった視点から、さまざまな時代・地域の事例を取り上げ、それらの類似点に着目することで日本近代移行期の貨幣史をめぐる議論の深化を図る糸口をつかめたと考えている。

実証研究に関して、近世～近代移行期日本については、地方商家文書の解析が進すんだ結果、当該期において「寶貨錯乱」と呼ばれるような、通貨の重層性・多様性が進行する中で、支払手段と価値尺度の分離が進行しつつあったことと、それと同時に総体として近世的な通貨制度が明治初年において終焉を迎えるに至った時期とその態様の一端をつかむことができた。また外国の事例では、西アジア、西ヨーロッパ、中国における建値通貨と決済通貨の分離がある局面で進行することが、いくつかの事例を通じて確認できた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

- ①加藤慶一郎、近世後期近代移行における播州三木町の通貨構造、流通科学大学論集—流通・経営編、24、168-189、2011、査読無
- ②名城邦夫、17 世紀前半西ヨーロッパにおけるニュルンベルク為替銀行の意義—アムステルダム為替銀行との比較を中心に、名古屋大学論集社会科学編、205、2011、1-51、査読無
- ③浦長瀬隆、江戸時代における銭匁同士の換算、国民経済雑誌、205、13-21、2011、査読無
- ④浦長瀬隆、17・18 世紀中津藩城下町における貨幣流通、国民経済雑誌、201、1-30、2010、査読無
- ⑤西村雄志、銀の流通から見た世界史の構築、デニス・フリン著・秋田茂・西村雄志編『グローバル化と銀』、5-28、2010、山川出版社、査読無
- ⑥岩橋勝、李紅梅、近世日本中国朝鮮における貨幣経済化比較史試論、大阪経済大学日本経済史研究所編『東アジア経済史研究第 1 集—中国・韓国・日本・琉球の交流—』、思文閣出版、59-81、2010、査読無
- ⑦加藤慶一郎、西鶴と信用機構—決済と預金—、西鶴と浮世草子研究、3、125-129、2010、査読無
- ⑧寺地孝之、外国の金融経営史、宮本又郎・

粕谷誠編著『講座・日本経営史 経営史・江戸の経験—1600～1882—』、ミネルヴァ書房、279-289、2009、査読無

⑨西村雄志、20世紀初頭における香港の銀本位制、籠谷直人・脇村幸平編『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀』、世界思想社、282-305、2009、査読無

⑩鎮目雅人、日本における近代通貨システムへの移行を巡って—決済における取引費用の観点から—、国民経済雑誌、197、45-64、2008、査読無

⑪名城邦夫、中世後期・近世初期ヨーロッパ・ドイツにおける支払決済システムの成立、名古屋学院大学論集(社会科学編)、71、5-27、2008、査読無

⑫岩橋勝、近世畿内周縁地域の銭匁遣い——北近畿・宮津藩領を中心として、松山大学論集、20、189-223、2008、査読無

〔学会発表〕(計17件)

①加藤慶一郎・鎮目雅人、近代移行期日本の貨幣・信用、日本金融学会2011年度秋季大会、2011年9月19日、近畿大学

②岩橋勝、近世日本の貨幣・信用、日本金融学会2011年度秋季大会、2011年9月19日、近畿大学

③城山智子、近代移行期中国の貨幣・信用、日本金融学会2011年度秋季大会、2011年9月19日、近畿大学

④加藤慶一郎、Circulation of Securities as Medium Denomination Currency in Japan: The Gold Standard, Local Economy and Settlement, Settlement, 1897-1917, The 13th International Conference of European Association of Japanese Studies, 2011年8月11日, Tallinn University, Tallinn, Estonia

⑤加藤慶一郎・鎮目雅人、近代移行期における貨幣と信用—決済の観点から—、社会経済史学会全国大会、2011年5月5日、立教大学

⑥名城邦夫、17世紀ヨーロッパにおけるニュルンベルク為替銀行の意義—決済と貨幣統合、社会経済史学会全国大会、2011年5月5日、立教大学

⑦西村雄志、両大戦間期インドにおける決済構造の重層性—棉花買付の事例を通じて—、社会経済史学会全国大会、2011年5月5日、立教大学

⑧岩橋勝、銭匁勘定、銭遣いの意義—小額貨幣と経済発展との関連で—、社会経済史学会近畿部会夏期シンポジウム、2010年8月20日、大阪市立大学

⑨加藤慶一郎、近代日本における通貨統合の定着過程—明治・大正期の紙幣類似証券を中心に—、社会経済史学会近畿部会夏期シンポジウム、2010年8月20日、大阪市立大学

⑩西村雄志、香港における銀本位制の成立と

銀行券の役割について、社会経済史学会全国大会、2009年9月27日、東洋大学

⑪加藤慶一郎、Paper Money in early-modern Japan: economic and folkloristic Aspects, XIV International Numismatic Congress, 2009年9月3日, University of Glasgow, Glasgow, UK

⑫西村雄志、The Yokohama Specie Bank in the Osaka-Kobe Area before 1913: A Case of raw cotton trade between British India and Japan, The 15th World Economic History Congress, 2009年8月7日, Utrecht University

⑬西村雄志、Exports of Primary Products and the Commercialisation of Forests in British India, 1890-1913, The 15th World Economic History Congress, Utrecht, 2009年8月6日, Utrecht University

⑭城山智子、The Global Trade Expansion in the 19-20 Century Asia, and North, The 15th World Economic History Congress, 2009年8月5日, Utrecht University

America: Perspectives from Local Markets
⑮西村雄志、The Role of Small Money for the Industrialization of Bombay around the 1920s, Joint Workshop on Labour-intensive Industrialization in South and Southeast Asia, 2008年12月20日, Inamori Foundation Memorial Hall

⑯城山智子、1929年世界経済危機下の中国经济、中山大学垂太学院・歴史系聯合学術検討会、2008年12月16日、中山大学(広州市、中華人民共和国)

⑰加藤慶一郎、Money and travel in pre-modern Japan, 12th International Conference of the European Association of Japan Society, 2008年9月23日, Salento University, Italy

〔図書〕(計2件)

①城山智子、江蘇人民出版社、大蕭條時期的中國：市場・國家與世界經濟(1929-1937)、2010年、250

②城山智子、名古屋大学出版会、大恐慌下の中国：市場・国家・世界経済、2010年、358

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤慶一郎 (KATO KEIICHIRO)
流通科学大学・商学部・教授
研究者番号：20330075

(2) 研究分担者

岩橋 勝 (IWAHASI MASARU)
松山大学・経済学部・教授
研究者番号：20069321

名城 邦夫 (NASIRO KUNIO)
名古屋学院大学・経済学部・教授
研究者番号：90097684
城山 智子 (SIROYAMA TOMOKO)
一橋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：60281763
西村 雄志 (NISHIMURA TAKESHI)
関西大学・経済学部・准教授
研究者番号：10412420
浦長瀬 隆 (URANAGASE TAKASHI)
神戸大学・経済学研究科・教授
研究者番号：80176742
寺地 孝之 (TERACHI TAKAYUKI)
関西学院大学・商学部・教授
研究者番号：40207486
鎮目 雅人 (SHIZUME MASATO)
神戸大学・経済学研究科・教授
(H20→H21：連携研究者)
霧見 誠良 (TSURUMI SHIGEYOSHI)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：10061227

(3)連携研究者
なし